



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R231222-1226-15
 奈良県天理市指柳町270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>
 Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
 【1月1日～1月31日】
 朝づとめ 午前6時45分
 夕づとめ 午後6時00分

あけましておめでとございませす

昨年は教祖百四十年祭に向かう二年千日の第一
一年目を迎え、おぢばの理に沿って一人ひとり
りが心定めを行い、心の入れ替えと陽気ぐら
しの生き方を心掛けてまいりました

また大教会三代会長夫妻の年祭も勤めさせて
いただき、先人先輩方の信仰信念と世界たす
けへの強い思いを学ばせて頂きました

年が改まり、今年はお一層教祖のお心に溶け込
んで、諭達の精神を胸に、お道の常識によつて物
事の判断を行い、いつも心明るく、に、い、が、け、
おたすけ・おぢば帰りを目指して年祭活動の第二
年目を一手一つに歩ませて頂きましたよう
本年もよろしくお願いたします

立教百八十七年 元 旦

天理教本島大教会長 片山 幹太



教会長夫妻おたすけ推進の集い

日時 1月25日午後1時より
 会場 本島詰所4階講堂
 参加御供 1名につき500円
 講師 松村義司先生(本部長・たすけ委員会委員長)

あけましておめでとうございます

立教187年 各会より謹んでごあいさつを申し上げます

婦人会本島支部長 片山かおり

新年明けましておめでとうございます。旧年中は婦人会活動の上にかとお力添えを賜り誠にありがとうございました。

さて、昨年は教祖140年祭に向かう年祭活動一年目の年でした。大教会の成人目標の中に『一人ひとりが年祭活動を行う』とありますが、1年を振り返っていかがでしたか？

『年祭活動は、「非」常時活動』とお聞かせいただきます。この年祭活動の三年間は、とにかくいつも自分が定めた目標を心におき、明るく勇んで道の台たる勤めに励ませていただきましょう。また、婦人会本部より昨年『母親講座』を『みちのだい育み塾』と新しい名称に変え、生み育ての徳分を活かし我が子や後に続く人を道の子らしく立派なようぼくとなるよう育てようと、お打ち出しくださいました。その事も踏まえつつ、本年も引き続き大教会の成人目標や婦人会活動方針に沿って一歩一歩前進させていただきますよう。よろしくお願いたします。

少年会本島団团长 大上 道德

新年明けましておめでとうございます。昨年は縦の伝道にお力添えご尽力賜り誠に有難うございました。

昨年は4年振りとなる「こどもおちばがえり」が開催されました。久々に子供達の笑顔溢れる元気な姿に感激いたしました。さぞかし親神様、教祖もお喜び下されたことかと存じます。

鼓笛御供演奏では真柱様が立ち上がって拍手をくださったお姿を拝見し、大きな親心を感じ私は涙が止まりませんでした。その時何としても親の思いに伝えさせて頂きたいと強く感じました。

本年も「こどもおちばがえり」にそれぞれの隊よりお帰りに感謝いたしますこと心より切に念じております。

少年会員育成丹精の上に共々に勇んで努めさせて頂きたいと存じます。今年一年どうぞ宜しくお願いたします。



青年会本島分会委員長

伊東賢太郎

新年明けましておめでとうございます。旧年中は青年会活動の上に御心を御寄せ頂き、誠にありがとうございました。昨年の青年会総会において、青年会長様から青年会の基本方針である「心を澄ます毎日を送るために「埃を減らす」「誠を増やす」という2つのポイントをお教え頂きました。

本島分会として、このポイントを一人ひとりが実践し、教祖140年祭に向けて邁進してまいりたいと思っております。

また本年は各地に足を運び、本島に繋がる若者と交流を深め、本島分会が若者にとって「励まし合いの場」となれるよう、活動してまいります。本年もよろしくお願いたします。

本島学生担当委員長 雲庵 春彦

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は学生層育成の上にご尽力を頂きありがとうございました。年祭活動二年目の本年も、春の学生おちばがえり、学生生徒修養会、本島サマーキャンプを中心に学生生活の宝となるような活動をしていきたいと思っております。

皆様方には本年も学生層への丹精、声掛けによりしくお願いたします。

おやさま 教祖の道具衆として 教祖のお心通り素直に

12月大教会教会長会議
立教186年12月22日
大教会長 片山幹太



論達にも、10月26日の真柱様の言葉にもありますが、年祭活動の角目は、教祖の道具衆としての自覚を高めることにあります。そのことについて思うことをお話

しいたします。

今年の6月、本島として初めて本
部大裏地区にて田植えひのきしんを
させて頂きました。そして10月は稲
刈りを行いました。それらの米はご
本部で使われることになっています。
収穫を得るために私達が行ったの
は、田植えと稲刈りだけです。その
間、火水風の恵みを頂いて成長した
のは、親神様のお働きであります。
私達はほんの少しお手伝いをしただ
けで、親神様からご覧になれば私達
は道具と言えましょう。私達は最初
と最後だけ道具として使ってもらっ
たことになりました。

一方で、親神様の火水風の恵みだ
けでも米はできません。田植えと稲
刈りが行われなければ、つまり我々
道具としての力がなければ、実りを
収穫することはできないのです。

親神様は人間に陽気ぐらしをさせ
たいとの思召ですが、親神様だけで
は陽気ぐらしは実現できないのです。
私達人間の、道具としての働きが欠
かせないことになります。

真柱様はお言葉で

「よ、ふ、ぼくは教祖の道具衆であり
ます。(中略)教祖のお心通りに素
直に実行して、たすけ一条に励ま

本島大教会 神殿講話 (要旨)

【立教186年12月22日】

ようぼく三信条、神一条の精神、 ひのきしんの態度、一手一つの和

大教会准役員 原口 実 はらぐち みのる

只今は皆さまとご一緒に、本年
納めの月次祭を勇んで勤めさせて
頂きました。大変有難く存じます。
立教186年も残り10日間となりま
した。教祖140年祭まであと75日余

り、「何も出来ていないな」と思うの
か、「まだ75日もあるやないか。ま
だまだ行ける」と思うのか、受け止
め方はそれぞれでしょう。

せていただくことが使命である
ことを、あらためて確認し合
たいと思います」

は、何も教祖と同じようなことをせ
よ、ということではありません。私
は日々の心の持ち方、心の使い方を
教えて下さっているのだと思います。

と仰せられました。
来年も私達は各々の役割を自覚
し、皆で励まし合いながら、心明
るく一歩ずつ着実に陽気ぐらし
に向かって歩を進めさせて頂きま
しょう。

育ててくれた母親のように思うこと。
教祖を恋い焦がれることだと思
うのです。教祖のお姿を見ることは
ありませんが、心の中にいつも気にか
かる存在として感じるのだと思
います。

「よ、ふ、ぼくは教祖の道具衆であり
ます。(中略)教祖のお心通りに素
直に実行して、たすけ一条に励ま

そして日々の生活で、何かを決め
なければならぬとき、「教祖なら
どうなさるだろうか」、困ったとき

「教祖は何と仰るだろうか」と、ひながたの道に照らし合わせて、「教祖なら」と歩ませて頂くことが出来れば間違いないと思うのです。

教祖伝逸話篇一〇四「信心はな」の中に、次のお言葉があります。

「神さんの信心はな、神さんを、産んでくれた親と同んなじように思いなはれや。そしたら、ほんまの信心が出来ますで。」

教祖のひながたをどこか遠くにあるもの、または大切なものだからと仕舞い込んでいないでしょうか。尊いものだからと崇め奉るのではなく、身近な目標とすることが、をや、にお喜び頂ける道だと思っております。

教祖が親神様を神様ではなく「神さんはな」と親しみを込めて呼ばれているように、自分達の親を思うよ



うに、親神様、教祖を身近に感じながら、心に持って通らせて頂きたいと思えます。

さて本島の道は「親孝心の道」と常々教えられています。ちば一条、親に喜んで頂く道ということだと思えます。

今年の10月21日は片山俊次3代会長様とコズエ奥様の両年祭を勤めさせて頂きました。

今こうして結構な姿があるのは本島の道を、先にお通り下された多くの先人・先輩方の親を思う伏せ込みのおかげです。そのことを当たり前だと思っていたら、次の世代には信仰はつながっていかないのであり、また私たちが楽々の道を通っていれば、子や孫たちの世代ではどうなるか分からないと思っております。

私が青年づとめ中に、3代会長様から「あんたは今、大教会で伏せ込んでいるやろうけど、何も出来んでいい。ここにいる間、本島の空気をいっぱい吸って帰りなさい」と言葉をいただきました。

そのときは意味が分かりませんでしたが、今では「本島大教会という大きな理、ちば一条、親孝心という

大切な信条は目に見えないけれども、しっかり身につけて帰るよう」というあなたがかい親心ではなかったかと自分なりに悟っています。30年以上前のことですが、つい最近のように鮮明に心に残り、私の信仰の原点の一つになってます。

さて私たちは、日々の生活を送る上で、多くの「当たり前」の中で暮らしていると言っていていいでしょう。いつも意識することなく心臓は動き、呼吸をし、朝になれば目が覚め、夜が来ると眠くなります。自分で努力しなくても勝手にそうなっています。ほかにも身の内の多くの働きが、そして身の回りのことすべてが当たり前のように動いています。

この当たり前前なことが本当は有難くて嬉しいことなのですが、私たちはそれを明日も明後日も将来も、ずっと続いて行くものと勝手に思い込んでいます。と言うより、そんなことすら思っていない。何も考えていない。もはや当たり前とも思っていない、というのが正直なところではないでしょうか。

この当たり前前を、親神様は昼夜を問わず、可愛い我が子を愛しむよう

に、すべてをご守護くださっているのです。

おふでさきに、
いちれつのことものがかはいそれゆへに いろ／＼心つくしきるなり

(第四号63)

人間にとって当たり前であっても、そのすべてが親神様のご守護であり、私達は「知る」ということが大事だと思っております。

このよふのはちまりだしハとろのうみ
そのなかよりもどちよばかりや
このどちよなにの事やとをもっている
これにんけんのためであるそや
このものを神がひきあけてしても
だん／＼しゆごふにんけんとなし
それよりも神のしゆことゆうものわ
なみたいていな事でないぞや

(第四号122~125)

この世人間をお創め下されたご苦心や、今なお頂戴しているご守護というものは、親神様にとっても並大抵なことではないのであります。つまり、当たり前前ではないのです。

ある方が教祖に「世間では、神様というものは無い。という人もおりますが、神様はどんな方ですか」と尋ねられたところ、教祖は「有ると

言えば有る。無いと言えば無い。願う心の誠から見えて来る利益が、神の姿やで。」と仰せになられたそうです。

人間は、親神様の中に存在している、親神様の中で生かされているのであります。目に映るものすべてが親神様であり、目に見えないご守護のすべても親神様であり、遠い存在ではなく、日々ご守護下されている身近な存在です。

例えば風は目に見えませんが、木の枝や葉っぱが揺れていると、風が吹いていることに気づきます。あるいは日本一の富士山を登山している人には、美しい円錐形の富士山を見ることができません。

同じように親神様のご守護はあまりに大きくて目に見えないため、常に実感することは難しいのです。

そこで今あるご守護を「知る」ことこそ、大事なことだと思います。「知る」とは、その存在を確かにそうだと認める、気づく、納得する。また、心で捉えるという意味です。

教祖が教えて下さった親神様の存在を知ること。そしてそのご守護に気づいて、なるほどそうだと納得する。得心する。心に治める。という

ことが信心する上で大事なことになると思うのです。

唯一、そのことを教えて下さったのが教祖であります。その教祖にお喜びいただくためにも、私達はよくよくとしてどのような日々を送ればよいのでしょうか。

2代真柱様は「ようぼくの三信条」として「神一条の精神」「ひのきしんの態度」「一手一つの和」をお示し下さいました。

天理教少年会では「少年会員のおちかい」に「教えを守り、ひのきしんにはげみ、互いにたすけあつて、立派なようぼくに育ちます。」とあります。

現真柱様は教祖130年祭「後継者講習会」のお言葉の中で、三信条について詳しくお話し下さっています。

神一条の精神というのは、何かをするにしても、何を考えるにしても、教えを中心とした心の持ち方で考えていく習慣を身につけるといふことでありましょう。教理の難しいところは分からなくても、日ごろの暮らしのなかで、折にふれ、事に当たって、親神様の思いはどこにあるのだろうか、教祖は何を教えて下さっているのだろうかなどと考えるうち

に、少しずつ神一条の精神ということが身についてくると思うのであります。私たちが神一条の心を持って暮らすことで、陽気ぐらしの基盤が固まっていくと思うのであります。

次に、ひのきしんの態度。ひのきしんは、ひと口で言えば、日々に頂く親神様のご守護に対する、私たちの感謝の心を表す行いであり、私たちに親神様への感謝の心で、どんなことにも喜びを持って、明るく勇んで取りかかるその姿は、見ているも清々しく、気持ちの良いものであります。しょう。また、そうした姿は、時に周りに対するにいがけともなるのであります。

そして、一手一つの和。私たちが目指している陽気ぐらし世界への立て替えは、限られた人数で成し遂げられることではなく、何世代にもわたる大勢の人の協力が必要であることとは言うまでもありません。どの土地に暮らす人も、また、どんな仕事に就いている人も、みんなが親神様の思召一つに心を寄せ合い、それぞれが持ち場、立場の務めを果たしていくとき、おのずと一手一つとなり、そこに大きな力が生まれ、一人では味わうことのできない喜びを感じる

ことができるのであります。

(中略)どんな状況のなかにあつても教祖の教えを求めて通ることが、この道を歩む私たちの日常の心構えだと思えます。

(みちのとも立教181年5月号8頁)

私達ようぼく一人ひとり、ご存命の教祖にお引き寄せいただいて、今があると思うのです。日々は教祖にお連れ通り頂いている、お導き頂いているということを、常々忘れてはならないと思うのであります。それが、教祖の道具衆であるようぼくとして大事なことであると思えます。

いつも教祖の後ろを歩かせてもらうということ。そして、そのような日々を繰り返し通らせて頂くうちに、私達は少しずつ教祖にお育て頂いて成人していくのだと思うのであります。少しずつなので、私達はただ気が付かないだけなのです。いつの間にか、昨日よりも、昨年よりも、また10年前よりも成人させて頂いていることでしょう。

そして次第に親神様の御守護や、教祖の親心が身に感じられてきて、親神様の御守護がいかに有難いものか、教祖の親心がどれだけ有難いもの

のか、親の有難さが身に染みて解つてきます。

やがては、親の思いというの、「二れつの子供をたすげ上げたい」という教祖の思いを我が心として日々を通ることが、教祖のひながたを辿るといふことになるのではないかと、思うのであります。

そして、その時の心の持ち方は、どういう時でも、明るく喜んで通らせて頂くことだと思つたのです。同じことをするにしてもその心が、「あ、あ十分に結構やなあ、十分有難いなあ」と喜びいっぱい心の使い方ではないと、ひながたを辿っていると、おさしづに、

「狂わずして、日々嬉しいく通れば、理が回りに来る。なれど、こんな事ではく」と言つてすれば、こんな事が回りに来る。回りに来たら、どうもなるうまい。取り返やしが出来ん。よく聞き分けてくれ。(明治34年7月15日)」とあります。

このことは、教祖からお育て下されているよう、ぼくである私達一人ひとりの、教祖の年祭を勤める心の持ち方、通り方になると思つたのです。

この一年の年祭活動は、「論達第4号」のご発布、本部巡教、全教会一斉巡教、片山俊次3代会長様ご夫妻の年祭、さらにそれぞれの会活動も活発になり、何とも有難い一年であったように思います。あと二年余りの年祭活動期間、まだまだこれからです。先を楽しみに、一歩ずつ地に足のついた活動が出来ますように、教祖のひながたをいつも心に持つて、心明るくつとめさせていただきたいと存じます。

ご清聴ありがとうございます。

(文責・本島通信編集室)

「お戻し教会」のお知らせ

去る11月29日、左記の5教会が教会本部へお戻しとなり、真柱様よりご祈念ほどきされました。

- オープン教会
- ハワイシマ教会
- ニューロサンゼルス教会
- プナ 教会
- トロント教会

これをもって本島大教会の部内教会数は170ヶ所(本島大教会含めず)となりました。

以上

布教部報告(12月分)

布教部では全教会提出(提出教会数の増加)を目指しています。各教会名の右の数字は今年1月からの報告回数です。毎月新たに「1」の教会が増えていくことが目標です。
なお従来の「にをいがけ人数」は省略し、全体の総数のみ記載することにいたしました。

大教会長動向 ▶1月(予定)◀

- 1日 大教会元旦祭執行
- 3日 香川教区役職者会議
- 4日 本部年頭ごあいさつ
- 5日~7日 お節会ひのきしん
- 13日 赤峰分教会初代会長夫人 向所トヨエ 30年祭
- 22日 大教会春季大祭執行
- 24日 修養科門出まなび
- 25日 かなめ会委員会
- 26日 本部春季大祭参拝
- 27日 少年会年頭幹部会 かなめ会
- 30日 本部神殿奉仕当番

以上

にをいがけ名簿提出教会 (12月)			おさづけ取次報告教会 (12月)		
本島 5	本葵 1	神峰 6	本島 11	本千治 6	雅峰 10
樺太 11	本攝 4	豪峰 12	樺太 11	本葵 2	豪峰 11
本倉岡 12	本太 5	倉峰 11	本倉岡 12	本攝 7	倉峰 12
本樺 12	本萩 6	大雄峰 4	本陸奥 5	攝津 10	大雄峰 7
本室 12	本山海 1	雄福峰 6	本樺 12	攝泉 8	雄山峰 6
本都 12	本備前 10	雄山峰 9	本室 12	本太 6	栄森峰 5
本京 12	本迪 4	栄森峰 10	本都 5	本萩 8	栄星峰 2
本道盛 2	本府中 12	栄星峰 2	本京 12	本水島 12	栄東峰 6
本草 4	沖浦 7	栄東峰 12	本道盛 7	本山海 1	大隅聖峰 5
本護 6	崇徳 12	霊峰 11	本草 4	本備前 12	大松峰 4
本三 4	与島 8	大隅聖峰 4	本護 5	本迪 6	大駿峰 9
本恵 9	本勇 5	大松峰 4	本三 7	本府中 12	大英峰 6
本恵明 9	本宣道 11	大英峰 7	本恵 9	沖浦 7	肥後八峰 8
本日米 9	本九 5	文峰 8	本恵明 9	本亀 3	鶴峰 9
本米 7	本陽山 11	肥後八峰 8	本浜 9	崇徳 12	都峰 6
本米里 7	本新田 11	鶴峰 8	本米 8	与島 8	仙峰 12
本千代 12	赤峰 12	都峰 8	本米里 7	本九 4	竹ガバノツ 7
本千賀 8	雅峰 10	仙峰 12	本米浜 7	本陽山 11	ハリウッド 7
本千治 8	吉峰 7	シータック 2	本千代 12	本肥港 7	ウイルソン 2
			本千賀 6	赤峰 12	シータック 2
計 57 教会 482 名			計 60 教会 1,411 回		

十二月月次祭 祭典役割

献饗長 平井真治郎
伝 供 岡崎八十則・大上道徳・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・長尾海和・長濱充憲・岩橋守行・窪田卓夫・鎌田典夫・宮路和徳・白垣初生・滑川善久・
 香川勝巳・大西剛・村田輝夫・上山康雄・溝口晋太郎・川村吉夫・江草克二
雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・白垣俊生(順不同)

祭主 指図方	大教会長		西山道教	
	座りづとめ	扨者	老木邦光	井上哲
地方	をどりの前半		をどりの後半	
	片山 勲	岩橋竜造	片山直明	岩橋秀一
てをどり	大教会長	原口実	雲庵春彦	宮路和徳
	井上哲	奥村龍夫	滑川善久	原口和子
	西山道教	横山富明	長尾善絵	梅木澄代
	会長夫人	岡崎むつゑ		
	長尾澄子	雲庵まち子		
	片山孝代	吉田要子		
ちやんぼん	平井真治郎	伊東康成	長尾海和	溝口晋太郎
拍子木	永山晴明	茶屋原良昭	長濱充憲	江草克二
太鼓	岩橋慶三	横山正次	窪田卓夫	吉田知彦
すりがね	寺本教生	高垣光治	加藤道代	片山美穂
小鼓	窪田靖明	篠原丕王	佐藤道子	
三味線	老木邦光	後藤正治		
胡弓	片山やすゑ	井上みつの		
	池田さわみ	向所暉美子		
	片山 榮	伊東晴美		

十二月月次祭祭文

立教百八十六年十二月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様の果てしない親心と尽きせぬ自由の御守護とにより日々恙なく結構にお連れ通り頂く中に今日は早くも十二月の月次祭を執り行う日柄を迎えました

思い返せば本年一月には「教祖百四十年祭本部巡教」が実施され当大教会に於きましても役員、准役員、教会長夫妻、よふぼく一同が心を一つに揃えて「論達第四号」に込められた真柱様の思召をお聞かせ頂きました

更に二月からは「全教会一斉巡教」が実施され本島につながる全教会長、よふぼく、信者がそれぞれの教会でおらばの理を戴き年祭活動の意識を一段と高めて一人ひとりが教祖のひながたを目標に一手一つに歩み出させて頂きたいと新たな決意をお誓い申し上げました

更に十月には大教会片山俊次三代会長様とコズエ奥様の年祭を勤めさせて頂き、「をや一筋」「ぢば一筋」に勤められた在りし日の貴重な映像とお声を通して改めてこの旬に思召し下さるたすけ一条の御用に励ませて頂く決意を致しました

ここにこの一年お掛け下さいました御慈愛と親心に心からお礼申し上げて只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに揃えて座りづとめて

をどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます

御前には師走の寒空の中もいとわず大勢の教え子達がおうたを唱和して共に御礼申し上げます

お勇み下さいますようお願い申し上げます

私共教会長よふぼく信者一同はこの一年に賜りました数々の御守護に心より御礼申し上げます

つづ教祖のひながたに照らして反省を重ね明けて迎える年は三年千日祭活動の真中の年を教祖にお喜び頂けるよう よふぼく一人ひとりが世界たすけに努めさせて頂く決心でございます

何卒親神様にもこの心定めをお受け取り下さいますして来る年も一層の成人へとお導き賜りますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

入社祭

立教186年12月の入社祭はありませんでした。

12月22日(金)
【香川県丸亀市】

天候 晴後一時曇
 最低気温 1.9℃
 最高気温 6.3℃
 平均気圧 1027.5 hPa
 平均湿度 54%
 平均風速 4.7 m/s
 日照時間 4.1 時間
 降水量 0.0 mm

お道の仲間と共に学び合い
陽気ぐらしの実践へ

ようぼく 講習会

立教187年

受講対象

ようぼくで、講義・講話やグループタイム等の講習会受講が可能な方(年齢は問いません)

託児対象

生後91日目から小学校就学前まで(受講時の年齢)のお子様

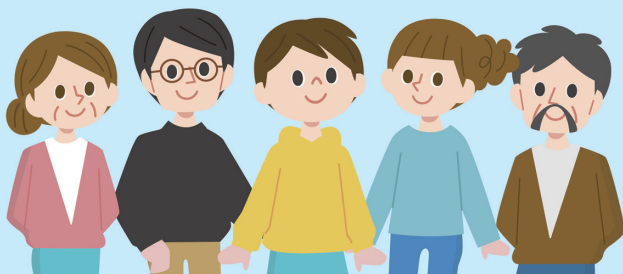
定員

50名

(定員に達した場合、申込を締め切らせていただきます)

開催内容

3つの1日コースプログラムと、2つの1泊2日コースプログラムを開催します(右記参照)



「ようぼく講習会」とは？

ようぼくがそれぞれの立場で陽気ぐらし世界実現に向かってその使命を果たすことができるよう、親里ぢばにおいてをやの思召を学び、自分の役割を再確認し、今後の日常生活に活かす場です。

1日コース

3つのテーマ

親神様の御守護と教えの実践

1月14日、3月17日、6月16日

教祖

2月18日、4月21日、10月6日

おさづけは有難い

5月19日、8月18日、12月15日

会場：おやさとやかた東左第4棟・第5棟
時間：9時～16時15分頃
(受付8時30分/東左第4棟3階)
受講御供：2,000円

1泊2日コース

2つのテーマ

教えに基づく生き方

～ふしの受け止め方とたすかる信念～

7月6～7日、11月9～10日

教えに基づく生き方 ～はたらく～

9月15～16日

会場：第38母屋
宿泊場所：7月6～7日 第38母屋
9月15～16日 第38母屋
11月9～10日 各信者詰所
時間：9時30分～翌日15時30分頃
(受付9時/第38母屋)
受講御供：5,000円
(11月9～10日は4,000円)

ホームページまたは申込用紙で
お申し込みください

※申込用紙は教養室庶務掛に準備しています

【お問合せ】教養室庶務掛

☎ 0743-63-2109

✉ yoboku-k@tenrikyo.or.jp

<https://www.tenrikyo.or.jp/yoboku-kosyukai/>

ようぼく講習会

🔍 検索



HPはこちらから

主催：天理教教会本部 教養室

事情はいつ

(立教186年12月26日)
 本米分教会(白鳥有子会長)
 移転願

移転地 神奈川県高座郡
 寒川町宮山一八四六番地二
 臨時祭典願

鎮座祭 立教187年3月2日
 奉告祭 立教187年3月3日
 以上

おどげの理拝戴

(立教186年10月分)

本 亀 長尾直太郎

雄福峰 根本光輝

【計2名】

(立教186年11月分)

神 峰 橋口有理

【計1名】

修養科第98期修了

(立教186年12月27日修了)

フィリップン 内田はるみ

大松峰 松下尚一

【計2名】

教人資格講習会修了

(立教186年10月11日付)
 本 幹 宮地あやか

【計1名】

教人登録

(立教186年11月)
 本 幹 宮地あやか

【計1名】

教会長資格検定合格

(立教186年10月18日付)

本 島

DANIEL TEIJI SUZUKI

本 島

TACIANA CRISTINA SUZUKI

【計2名】

をびや許し

(立教186年10月分)

吉松峰 安増昌子

【計1名】

(立教186年11月分)

本千嘉 佐志菜美

【計1名】

証拠守り下附

(立教186年10月分)
 大松峰2、ポートルランド1

【計3名】

(立教186年11月分)
 本米里1、本千嘉1

【計2名】

少年会新隊長

(立教186年10月26日付)
 本亀隊 長尾優子

【計1隊】

大教会神殿奉仕人

(立教186年12月22日付)

四辻朝恵

雲庵瑞穂

岩橋貴子

窪田奈穂美

小林政実

小林順子

長門弘典

橋爪 剛

吉野正晃

牧野元治

松下尚一

森 光征

【計12名】

青年会総会35名参加

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、11月25日に本部中庭で開催された「第97回天理教青年会総会」に35名が参加。真柱様のメッセージと青年会会長様のお言葉を頂きました。

総会終

了後、総

会におけ

るお言葉

の振り返

りを行い、

続いて境

内地草引

きひのき

しん、夕

づとめ後

は後夜

祭(本部

東西泉水

プール

前)に参

加しまし

た。

ろくぢふ

(立教186年11月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼崇徳分教会 ▼本高分教会 ▼ポートルランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
 ご芳志に厚くお礼申し上げます

統計 (10月1日~31日)

教会名	初席	中席	聖(び)鐘	修養科	教人講習	検定講習
本 島						2
御 幸	1					
本 幹			1		1	
本 倉	2			1		
本 小		1				
本 雅						
神 峰			1			
雄 福						
台 檀	1					
合 計	4	1	2	1	1	2

統計 (11月1日~30日)

教会名	初席	中席	聖(び)鐘	修養科	教人講習	検定講習
本 惠		2				
本 米	1					
本 里		1				
本 千						
本 府		2				
本 中						
神 峰			1			
大 駿		2				
別 峰		1				
仙 峰						
合 計	2	9	1	0	0	0

- 隊はコーヒーブレイクとエレメンタリーマーチで奨励賞受賞、佐藤道子が新部長に就任)
- 7.27 立教186年こどもおちばがえり(8月6日まで教会本部、本島団からは帰参教会40教会、帰参総数313名)
- 7.28 女子青年こかん様に続く会(本島詰所、5名参加)
- 7.29 MOMOの会(本島詰所、14名参加、女鳴物勉強会)
- 8.11 学生生徒修養会高校の部(15日まで教会本部、学生5名・スタッフ3名参加)
- 8.17 本島学生会サマーキャンプ(19日まで大教会、学生26名スタッフ6名参加)
- 8.19 青年会本島分会あらきとうりょう入門塾(大教会、学生12名・委員2名参加)
- 8.19 婦人会本島支部女子青年の集い(大教会、学生14名参加)
- 8.21 少年会本島団第33回総会と夏のつどい(本島大教会、34名参加)
- 8.22 大教会8月月次祭(神殿講話：奥村龍夫准役員)
- 8.22 大教会布教部より「にをいがけ名簿・おさづけ取次報告しおり」発行
- 8.26 教祖140年祭教会長登殿参列(第2回)
- 8.26 本新田分教会任命願お運び(任命：窪田卓夫)
- 8.26 本島野球部が第50回全教野球大会で岡大教会に8対9の惜敗
- 8.30 本幸山分教会5代会長就任奉告祭(後藤正樹会長、参拝者23名)
- 9.2 青年会栗太分会一行が大教会へ来訪ひのきしん(9名)
- 9.4 四辻信子本陽泉分教会3代会長出直し(享年91歳)
- 9.9 青年会本島分会ダンディーキャンプ(10日まで大教会)
- 9.22 大教会9月月次祭(神殿講話：吉田晴雄准役員)
- 9.23 大教会秋季霊祭(15霊)
- 9.25 宮森与一郎先生による「おてなおし」(本島詰所、40名受講)
- 9.25 本京分教会臨時祭典願お運び(創立100周年記念祭立教186年10月14日、牧野道昭会長)
- 9.28 全教一斉にをいがけデー(30日まで)
- 9.30 新谷昌佳(實峰所属)・紗和(旧姓江草)結婚
- 10.8 青年会本島分会秋季雅楽講習会(9日まで本島詰所、9名参加)
- 10.14 本京分教会創立100周年記念祭ならびに神殿落成奉告祭(牧野道昭会長、参拝者約80名)
- 10.14 浦底サチエ本大和分教会長出直し(享年100歳)
- 10.14 青年会本島分会、大教会年祭準備ひのきしん(15日まで大教会、15名参加)
- 10.21 本島大教会3代会長片山俊次30年祭ならびに3代会長夫人片山コズエ20年祭(大教会、祭主：宮森与一郎先生、参拝者280名)
- 10.22 大教会秋季大祭(神殿講話：世話人宮森与一郎先生)
- 10.24 本部大裏地区稲刈りひのきしん(55名参加)
- 10.25 大教会布教部主催ようぼく研修会(本島詰所、90名受講、講師：金山元春天理大学教授)
- 10.29 教祖140年祭ようぼく一斉活動日(第1回)
- 10.29 岡崎ヨ子本浜分教会初代ならびに4代会長・サウザンパシフィック教会初代会長50年祭(本浜分教会、片山好治会長、参拝者75名)
- 11.12 本新田分教会4代会長就任奉告祭(窪田卓夫会長、参拝者39名)
- 11.22 大教会11月月次祭(神殿講話：片山孝子准役員)
- 11.25 宮森与一郎先生による「おてなおし」(本島詰所、45名受講)
- 11.25 安藝本中分教会おちばがえり団参(26日まで、33名帰参、池田さわみ会長)
- 11.26 教祖140年祭教会長登殿参列(第3回)
- 11.29 海外の5教会が本部にお戻しになりご祈念ほどこされる(オープン、ハワイシマ、ニューロサンゼルス、プナ、トロント) これをもって本島部内教会数170ヶ所となる
- 12.2 与島分教会おちばがえり団参(3日まで、7名帰参、岡崎八十則会長)
- 12.9 岩橋肇准役員・本宮濱分教会3代会長1年祭(本宮濱分教会、岩橋秀一会長、参拝者20名)
- 12.22 大教会12月月次祭(神殿講話：原口実准役員)

約20名が参拝しました。



岩橋肇1年祭(本宮濱)
本宮濱分教会(岩橋秀一會長、岡山県瀬戸内市)では12月9日、大教会長夫妻を迎え、大教会准役員・同教会3代会長岩橋肇1年祭を執り行い、約20名が参拝しました。



与島おちばがえり団参
よしま
与島分教会(岡崎八十則會長、香川県坂出市)では、12月2日と3日おちばがえり団参を実施。7名が帰参しました。
別席、本部廻廊拭きひのきしん、年祭活動お願いづとめ参拝、さらに詰所ひのきしんを行いました。

本島通信で振り返る 立教186年の出来事

- 1.1 大教会元旦祭
- 1.2 本府中分教会2代会長吉田八朗40年祭(吉田知彦会長)
- 1.8 青年会本島分会新春雅楽講習会(9日まで本島詰所、16名参加)
- 1.13 本島団鼓笛隊第47回北海道地区冬季合宿(15日まで本樺分教会、7名参加)
- 1.14 本海分教会100周年記念(岩橋守行会長、参拝者10名)
- 1.21 教祖140年祭本部巡教(巡教員:本部員田中善吉先生、179名受講、海外教会に限定でライブ中継21名視聴)
- 1.22 大教会春季大祭(神殿講話:片山幹太大教会長)
- 1.22 大教会辞令交付:婦人会本島支部(支部長:片山かおり、ほか委員19名)
- 1.25 教祖140年祭本島大教会決起の集い(本島詰所、90名受講)
- 1.28 青年会本島分会布教教理勉強会(29日まで本島詰所、9名参加)
- 1月 本島大教会ホームページ(本島ドットコム)に大教会年譜表を初掲載
- 2.5 攝泉分教会4代会長就任奉告祭(井上みち子会長)
- 2.10 レッツゴー青年会(12日まで本室分教会・本樺分教会・樺太分教会、4名参加)
- 2.22 大教会2月月次祭(神殿講話:西山道教役員)
- 2.22 藤山好子役員夫人・本攝分教会4代会長夫人出直し(享年97歳)
- 2.22 大教会布教部より「教会の掲示板(第1回)」発行(教祖140年祭まで毎月発行することに)
- 2月 教祖140年祭全教会一斉巡教(5月末日まで、実施教会数159教会、受講者数1,990名)
- 3.4 学生生徒修養会大学の部(3月4日~8日、本島より学生7名、スタッフ1名参加)
- 3.10 学生生徒修養会高校卒業生コース(3月10日~12日、本島より学生2名、スタッフ3名参加)
- 3.19 本攝分教会創立100周年記念祭(片山直明会長、参拝者68名)
- 3.21 阿部浩介(本樺所属)・彩夏(旧姓喜瀬川)結婚
- 3.22 大教会3月月次祭(神殿講話:少年会縦の伝道講習会として講師:西正一郎少年会本部委員)
- 3.22 大教会辞令:布教部委員(追加3名)、本島学生会(委員長:片山元一、副委員長:岡崎一志・中筋あやの・片山直道)
- 3.23 大教会春季霊祭(14霊)
- 3.28 春の学生おちばがえり(本島学生会より学生24名、担当委員9名参加)
- 3.31 本島団鼓笛隊第109回春季合宿(4月2日まで本島詰所、89名参加)
- 3月 大教会にをいかけ名簿リニューアル
- 4.1 吉野俊宏吉松峰分教会長出直し(享年87歳)
- 4.8 青年会本島分会春季雅楽講習会(9日まで本島詰所、11名参加)
- 4.14 大教会4月月次祭(神殿講話:斉藤かよ役員夫人、祭典後教祖お誕生まつり)
- 4.14 教祖140年祭に向かって「成人目標」発表
- 4.19 天理教婦人会第105回総会(本島支部より135名参加)
- 4.20 本島大教会3代会長片山俊次30年祭(本部祖霊殿、祭主:宮森与一郎先生)
- 4.23 渋谷分教会5代会長永島精一1年祭、同夫人永島タキエ10年祭(永島宗行会長)
- 4.26 台檀教会恒例祭日変更願お運び(ソー・リーン・ミツノ会長、春季大祭ならびに月次祭を第1日曜日に変更)
- 4.29 全教一斉ひのきしんデー
- 5.3 沖浦分教会3代会長宮本明ならびに同分教会2代会長夫人宮本喜代子40年祭
- 5.3 本勇分教会おちばがえりひのきしん(4日まで、10名参加)
- 5.4 青年会本島分会GWプチひのきしん隊(5日まで本島詰所、9名参加)
- 5.22 大教会5月月次祭(神殿講話:雲庵春彦准役員)
- 5.26 教祖140年祭教会長登殿参列始まる(第1回に15名参列、以後立教188年3月まで全10回実施)
- 6.2 おやさとふしん青年会ひのきしん隊第914回隊入隊(23日までの期間中に8日間、12名参加)
- 6.13 松下一司大松峰分教会2代会長出直し(享年65歳)
- 6.22 大教会6月月次祭(神殿講話:片山直明准役員)
- 6.24 本部大裏地区田植えひのきしん(50名参加)
- 6.25 宮森与一郎先生による「おてふり稽古」(本島詰所、25名受講)
- 6.26 本幸山分教会任命願お運び(任命:後藤正樹)
- 6.27 片山幹太大教会長、一般財団法人天理教一れつ会評議員に任命される
- 6.28 雲庵春彦(本九分教会長)・瑞穂(旧姓出田)結婚
- 7.1 青年会本島分会夏季雅楽講習会(2日まで本島詰所、10名参加)
- 7.22 大教会7月月次祭(神殿講話:片山和信准役員・米国より動画による)
- 7.23 本島野球部が第50回全教野球大会香川県予選を突破
- 7.26 本島団鼓笛隊第110回夏季合宿(30日まで本島詰所、100名参加、30日の鼓笛オンパレードにて本隊はR.Y.Gで金賞[50回連続金賞受賞]、ドリーム

大教会からの お知らせ

12月22日教会長会議連絡事項

教会長夫妻おたすけ推進の集い



【年祭活動実行委員会】

- 日時：立教187年1月25日午後1時より
- 会場：本島詰所4階講堂
- 参加御供：1名につき500円
- 対象者：教会長ならびに配偶者、直属教会長が認めた者
- 講師：松村義司先生(本部長・たすけ委員会委員長)
- 参加申込書を1月20日まで大教会総務へご提出ください。
- 詰所の宿泊・食事の申込みは各自で詰所事務所へご予約ください。

〈追加連絡事項〉

- ねりあいテーマについて
テーマ①：年祭活動一年目の振り返り
テーマ②：三つの要点についての取り組み方→「日々のにをいがけ」「積極的なおたすけ」「ちばの理を戴く」

新春雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：立教187年1月13日(土)～14日(日)
- 場所：本島詰所
- 内容：経験者は壺越調、初心者は平調

鼓笛隊北海道地区冬季合宿

【本島団鼓笛隊】

- 本島鼓笛隊第48回北海道地区冬季合宿
- 期間：1月12日(金)から14日(日)
 - 会場：樺太分教会
 - 派遣指導員：佐藤道子、奥村由多加

少年会年頭幹部会

【少年会本部】

- 期日：1月27日午前9時30分より
- 会場：第二食堂
- 対象：育成会長、団長、少年会委員

教会長登殿参列

【登殿参列係】

- 2月26日月次祭登殿参列者(教会名) 本都・本千恵・本千賀・本亀・崇徳・本柳・攝良・攝津・本山陽・本迪・豪峰・栄峰・大駿峰・同朋・本宮濱(順不同)
※車椅子が必要な教会、登殿月の変更希望等は早めにお知らせ下さい。
- 登殿参列集合について
詰所で教服を着用し、午前7時30分写真の間集合してください。諸説明後、バスにて出発します。
※教服の貸出はありませんので、各自でご用意ください
- 該当月に登殿参列が出来ない場合は、一覧を本島詰所に掲示しておりますので、各自で交代の話し合いを行い、決まった後は必ず登殿参列係へお知らせ下さい。
- 登殿参列係：平井真治郎役員

学生生徒修養会大学の部



【本部学生担当委員会】

- 期間：令和6年3月4日～3月8日(4泊5日)
- 受講対象：①令和5年12月25日現在、大学・短期大学・大学院・専門学校・高等専門学校(4年生以上)に在学している者。②全期間(4泊5日)を通して受講できる者
- 募集人員：700名
- 受講御供：10,000円、詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。そのほか交通費などは別途必要になります。
- 申込方法：本島学生担当委員会へ以下の書類をお届け下さい。受講願書1通(参加にあたっては、必ず保護者の同意を得ること)返信用封筒1枚(本人氏名、住所、郵便番号を記入し、84円切手を貼付すること)
- 申込期間：令和5年12月25日～令和6年2月15日。※定員になり次第締め切られます。
- 担当：雲庵春彦 090-2515-8039
横関茂治 090-1138-1690

MOMOの会



【婦人会本島支部】

MOMOの会とは、本島につながる子育て中の母親とその同年代の方が対象です

◆MOMOの会LINE公式
にご登録下さい



◆鼓笛隊応援ひのきしん

- 期間：令和6年3月28日から31日
- 場所：本島大教会
- ◆接待作法勉強会
- 日時：令和6年3月30日
- 場所：本島大教会

1月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：1月21日～22日
- 派遣教会：安藝本中分教会

〈詰所・春季大祭世話取りひのきしん〉

- 期間：1月24日午後8時～26日午後3時30分、写真の間にて集合解散
- 派遣教会：本樺・渋谷・本浜・本攝・本宮濱・安藝本中・馬木尾・本豊後各教会1名、赤峰2名

大教会春季大祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：1月22日大教会春季大祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝までにライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：1月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。申込み後、自動返信メールが送られます。届かない場合は各自の迷惑メールフォルダをご確認ください。



<https://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト



は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード